

令和 7 年度第 1 回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料収集部会

令和 7 年 10 月 3 日（金）
東京都江戸東京博物館 会議室

午前 9 時 58 分開会

宮田文化施設担当課長：それでは少しお時間は早いですが、皆さまおそろいですので、開始させていただきます。

本日はお忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまから令和 7 年度第 1 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料収集部会を開催いたします。私、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の宮田と申します。議事に入るまで司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、東京都生活文化局文化施設・連携推進担当部長、杉山から御挨拶を申し上げます。

杉山文化施設・連携推進担当部長：杉山でございます。都庁で文化施設を担当させていただいております。おととしまで財団にもおまして、江戸博の副館長も 1 年ほど務めさせていただきましたので、収蔵委員会にもそのときに参加させていただきました。お世話になりました。

今日も朝から秋めいたとはいえ、うっすら暑い気候でございますが、御出席いただきましてありがとうございます。江戸博は御承知のようにまだまだ工事中でございます。令和 4 年から工事をしておりますが、その間も資料の収集、保管は継続しておりましたし、移動博物館の開催、館外での展示やオンラインの資料公開など、多様な取組を進めてきたところでございます。来年春にリニューアルオープンを迎える予定でございます。江戸博がさらに国内外の皆様に広く親しまれ、来ていただける、楽しんでいただける施設となるよう、魅力向上に努めてまいりたいと思っております。

また、江戸博の使命でございます収蔵資料の最大限の活用、保存という部分も大切に思っております。引き続き東京の歴史と文化の魅力と最大限継続的に発信していきたいと思っております。

本日は、購入候補となります作品について、当館に収蔵する資料としてふさわしいものかどうか、委員の先生の皆様から専門的な視点から忌憚のない御意見をいただければと思っております。簡単ではございますが、私の御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

宮田文化施設担当課長：続きまして、東京都江戸東京博物館、藤森館長から御挨拶を申し上げます。

藤森館長：見てのとおりまだ外は工事中の感じですが、着々と準備も進んでおります。特に開館記念、再出発の展覧会も着々と進んでおまして、今日の収蔵品についても、皆さんにぜひご議論していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

宮田文化施設担当課長：次に、本日御出席いただいた委員の皆様を御紹介いたします。向かって左側の席から順に御紹介させていただきます。

江村委員でございます。

高橋委員でございます。

田沢委員でございます。

根崎委員でございます。

金山委員でございます。

田辺委員でございます。

福原委員でございます。

藤實委員でございます。

なお、関沢委員については事前に御欠席との連絡を頂戴しております。

続きまして、事務局職員の紹介をいたします。

江戸東京博物館副館長の猪俣でございます。

学芸担当部長の飯塚でございます。

事業企画課長の新田でございます。

次に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。一番上でございますのが会議次第。そして、資料1「収蔵委員会資料収集部会委員名簿」、資料2「収蔵委員会設置要綱」、資料3「資料収集具体的方針」、資料4「令和7年度東京都江戸東京博物館における収蔵品購入に関する方針について」、資料5「収集・保管及び展示等業務実施要領」、資料6「令和7年度第1回資料収蔵委員会（収集部会）説明資料」、資料7「令和7年度第1回資料収蔵委員会付議資料」をお配りしております。不足等はないでしょうか。また、お手元の資料につきましては、現時点で未公開情報がございますので、会議了後に回収をさせていただきます。

それでは、これから議事に入る前に委員長及び副委員長の選任をお願いしたいと思います。

当部会の委員長及び副委員長は、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱の第9の規定により、委員による互選で定めることになっております。いかがでしょうか。

（藤實委員、挙手）

藤實委員：推薦させていただきたいと思います。委員長に根崎委員、副委員長に金山委員を推薦したく存じます。よろしくお願い申し上げます。

宮田文化施設担当課長：ただいま委員長に根崎委員、副委員長に金山委員を推薦していただきましたが、皆様いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

宮田文化施設担当課長：それでは、委員長は根崎委員、副委員長は金山委員をお願いしたいと存じます。

根崎委員長：ただいま皆様の御推薦により、本会の委員長を務めさせていただきます根崎でございます。円滑な議事進行に努めてまいりたいと思いますので、御協力賜りますようお願いいたします。

金山副委員長：同じく皆様の御推薦により、副委員長を務めさせていただきます金山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

根崎委員長：それでは、早速議事に入りたいと思います。まず部会の公開について、事務局より御説明をお願いします。

宮田文化施設担当課長：当部会は、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱の第11の規定により、原則公開となっております。しかし、資料収集決定前の審議の段階で対象資料の詳細を公開することにより現在の資料所有者の方に不利益を生じさせるおそれがあること、また資料

の現物確認については所有者から参考用に借用していることから、本日の段階では議事内容は非公開とすることが適当と考えます。

なお、当部会の議事録については、同要綱第 11 第 2 項の定めに基づき、資料収集決定の後、公開を予定しています。公開に当たりましては、委員の皆様にご追って内容の確認をさせていただきます。

非公開とするには要綱第 11 の第 1 項（2）及び第 2 項（2）の規定により、部会での決定が必要となります。このことについて事務局としましては、委員の皆様にお諮りをさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

根崎委員長：それでは、今年度の資料収集部会の公開の是非についてお諮りしたいと思います。事務局から、本日の段階での議事内容は非公開が適当と意見がございましたが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

根崎委員長：ありがとうございます。それでは、事務局の意見に対して特に異議がないようですので、ここから先の本部会の議事内容は非公開とさせていただきます。

それでは、事務局から資料の御説明をお願いいたします。

新田事業企画課長：それでは、今年度の資料の収集方針を御説明いたします。資料 3、東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針を御覧ください。

江戸東京博物館は、この東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針に則って当該年度の資料購入の方針を決定し、その方針に沿って展示及び研究に供することができる資料を収集することとなっております。それが資料 4「令和 7 年度東京都江戸東京博物館の収蔵品購入に関する方針について」でございます。この資料に令和 7 年度の資料収蔵品購入に関する方針について記載しております。今年度は、次の 3 つを重点項目としております。第 1 に「当館のコレクションをより充実させる資料」、第 2 に「江戸東京の歴史と文化の魅力を国内外に発信することができる資料」、第 3 に「当館の常設展、特別展の充実、あるいは魅力ある博物館運営に資する資料」。以上でございます。

続きまして、今回御審議いただく資料について御説明いたします。A 3 横判の資料 7「令和 7 年度第 1 回資料収蔵委員会付議資料」を 1 枚おめくりいただいた紙の下に、「1」とノンブルがございます。これが今回の付議資料の総括表でございます。

総括表の一番下の合計欄を御覧ください。今回付議する資料の合計点数は 170 点でございます。その内訳を区分ごとに示しておりますが、今回は全て標本資料となっております。収集区分ですけれども、購入が 169 点、管理換えが 1 点でございます。さらに、総括表の左から 3 番目の列に資料分類とございます。標本資料 170 点を分類別で見てもまいりますと、絵画が 1 点、工芸品が 23 点、生活民俗が 1 点、典籍が 1 点、文書類が 143 点でございます。2、3 ページに、購入資料の標本購入分の入手先別と一分類別の点数を一覧表にしております。

続きまして、主立った資料について御説明をいたします。A 4 縦判の資料 6「令和 7 年度第 1 回資料収蔵委員会説明資料」を御覧ください。この説明資料には収集予定リストの番号が掲載されておりますが、この番号は A 3 横判の資料 7 の 4 ページから 8 ページの資料リストの左端にあ

りますナンバー欄に記入された番号と一致してございます。2つ併せて御覧いただければと存じます。

では、まず説明資料1「色々山道威五枚胴具足」でございます。白・紅・紫の威の配色が華やかな五枚胴具足です。兜の鞆と頬当の垂は立涌威、胴は威糸を巧みに増減してジグザグに文様をあらわした山道威でございます。

四つ目結文を兜の鍬形台と吹返、胴や袖の八双金物に鍍金で打ち、具足箱の雨皮にも金箔押であらわします。雨皮の裏には、「文化九壬申年五月出来」とあり、また表には、後代のものでしょうが「石州津和野城主四万三千石亀井隠岐守」の貼り紙がございます。このことから、所有者の候補として石見津和野藩八代藩主の亀井矩賢が挙げられます。

昨年度新たに収蔵した5領の甲冑とともに、常設展示「武家の文化」や武家に関する特別展での活用、また徳川家や大名家の具足に関する調査研究に資することが期待されます。

次は、2「辻内家大工儀式道具」でございます。建築の起工に際し行われる鉦始の儀式に使われる道具一式でございます。銘文から本資料が幕府作事方大棟梁辻内家のものであったことが分かります。銘文によると享保12年に辻内家が江戸城本丸御殿内の御休息之間と御小座敷を新規に造営することとなり、2月15日に鉦始が行われ、同月20日に儀式道具が将軍の上覧に供されたといえます。『徳川実紀』享保12年3月13日条には、御休息所の柱立が行われたという記事が見られることから、造営の技術が確認されます。御休息之間と御小座敷は、将軍が日常生活を送る部屋です。このときの将軍は八代将軍吉宗で、このたびの御休息御殿の造営は先代家継からの代替わりにかかる工事であったと考えられます。

また、置台の裏面には、天明6年12月に御休息之間と御小座敷の修繕が実施され、鉦始の場で再び儀式道具の上覧が行われたことを記す文書が貼付されております。この年の8月に第十代将軍家治が没し、第十一代家斉が後を継ぎました。このときの修繕もまた、将軍の代替わりに代わる工事であったと思われます。

江戸中期の江戸城御殿の造営に関する重要資料であり、伝来や背景が明らかな大工の儀式道具として、非常に貴重です。常設展示「江戸城と町割り」をはじめ、展示に大いに活用できます。

続いて、3「染織関係資料」でございます。江戸時代の小袖と革裂帖及び近代の着物計6点の染織関係資料を付議いたします。

「黒木綿地小紋に桜几帳模様小袖」は、木綿地に松竹梅の小紋柄を染め付け、加えて友禅染で下前にあたる右身頃の裾とその裏の部分に几帳模様を表した小袖です。上流町人の女性が礼装用に着用したものと考えられます。型染による小紋柄と友禅染を組み合わせた意匠の小袖は、江戸末期から明治中期頃にかけて制作された例が数点確認されているものの現存数は少なく貴重です。

「革裂帖」は、金唐革、棧留革などの端切れを集めた裂帖で、舶来の革を中心に七子織やモールといった織物の裂も含まれております。両面折帖仕立てで表紙には金襴の生地が使われており、茶会の席などで鑑賞用に使用されたと考えられます。本作のように革を中心に収めた裂帖は、現存例が少なく貴重です。

江戸時代の工芸品・染織品をテーマとした展覧会や常設展示「文化都市江戸」、「江戸の美」などでの活用が見込まれます。

そして、4「浅草風俗図屏風」でございます。享保5年から6年頃の浅草周辺の景観を描いた紙本着色六曲一隻の屏風です。屏風全体を銀雲で三段に区切り、画面右上の隅田川の舟遊びにはじまり、両国橋、浅草御門、蔵前通り、駒形堂、並木町、雷門、仁王門、浅草寺本堂、熊谷稲荷に至るまでを描きます。参詣する人々や参道沿いの飲食店・商店、大道芸、のぞきからくりなどの見世物がつぶさに描かれ、浅草寺周辺の賑わいを活き活きと伝えています。18世紀の江戸の都市景観や風俗に関する展示・研究に有用な資料です。

次に、5「のぞき眼鏡」でございます。レンズを通して鏡で反転した眼鏡絵を見るための装置で、空間を錯視させる効果によって鑑賞者に驚きを与えたものです。18世紀中頃には舶来の珍器として知られ、浮世絵などにも描かれています。

本資料は、上部にレンズと鏡を備えた覗き箱を置き、下台に置いた眼鏡絵を覗く仕組みです。下台の窓と中段の障子には薄い裂が貼られ、採光できるように工夫されています。覗き箱は金唐革で装飾され、朱塗りの下台には金蒔絵で葵紋が施されます。葵紋入りの豪華なつくりから、西洋文化に関心を抱いた大名家が所用したものと推測されます。江戸時代の西洋文化の導入に関する展示・研究に有用な資料です。

そして、6「殿村篠斎宛曲亭馬琴書簡」でございます。曲亭馬琴が伊勢松坂の友人外村篠斎へ宛てた、新出の書簡です。

馬琴は書簡に長々と言葉を連ねることで知られますが、本資料においても全体で9メートル64センチもの紙に、身辺や著述・読書などの多岐にわたる事柄を連綿と書き綴ります。例えば版元の都合で『南総里見八犬伝』五編の出版がとどこおっていることを嘆き、八百善が出した料理本『料理通』の挿絵に亀田鵬斎や大田南畝らが酒席を囲む様子が描かれていることに対して、「けしからぬ世の中になり候」と感想をもらします。

現存する馬琴自筆の書状に本資料が加わることで、馬琴の執筆活動の様相や人柄がさらに詳らかになることが期待できます。馬琴研究に資するとともに、常設展示「出版と情報」や特別展においても広く活用が見込める好資料でございます。

続いて、「越後高田藩士今井重春関係資料」でございます。第十四代将軍徳川家茂が文久3年12月に上洛した際、「御先登」を務めた高田藩主榊原政敬の家臣・今井重春に関わる古文書3点です。

「道中諸日記書」は家茂の上洛に同道した今井が道中での出来事を記した日記です。道中における宿泊費や食費、煙草などの生活用品の購入額のほか、滞在場所の治安状況や現地で見聞きした風聞が記されております。江戸にも1か月弱滞在しており、吉原をはじめ両国や深川などの盛り場を見物した様子等も記されております。幕末の江戸市中の状況や、上洛時の下級藩士の実態について詳細に読み取ることができる好資料です。

このほか、上記上洛時の高田藩の上洛を記録した「大坂より二条城迄御供行列帳」、今井が書写した高田藩料西郷村の村役人一覧「西郷村高庄屋組頭附帳」を含みます。

常設展示「江戸から東京へ」及び幕末期を取り上げた展示での活用が見込まれます。

最後、8「井上貫流左衛門家資料」でございます。井上家は、初代貫流左衛門を祖とする幕臣でございます。貫流左衛門は武州忍藩の出身で諸国を遊学して医術と砲術を修め、江戸で医業を開きました。文化5年には幕臣に取り立てられ、対露防衛のため、2度蝦夷地に渡りました。初

代の没後、次男末五郎は先手同心として改めて抱え入れられ、作事方同心及び普請役を務めました。

本資料群は、武衛流他諸流派の砲術書や初代貫流左衛門から二代にわたる書簡・書付を含む139点の古文書から成ります。特に、江戸城御蔵に配備の銃砲器図は、他に記録が残っておらず貴重です。このほかに初代貫流左衛門に砲術入門していた平山行蔵との養子縁組解消にかかる文書などもございます。

当館では、初代から四代にわたる井上家旧蔵の資料群1,423点を既に収蔵してございますが、このうち文化期の蝦夷地関連のものを除いて、砲術関係資料は欠けておりました。館蔵資料を補完するものであり、幕臣の実態や江戸幕府の海防に関する展示や調査研究に有用な資料です。付議案件についての御説明は以上でございます。

このほか管理換えの資料について御報告を差し上げます。先ほど御覧いただきましたA3横判の資料7、令和7年度第1回資料収蔵委員会付議資料の総括表にて管理換えとなっている資料が1点ございました。こちらは東京都の中で交通局が所管してきた国指定重要文化財の東京市営乗合自動車、通称「円太郎バス」を生活文化局が所管する当館へと移管するものであることを御報告いたします。リニューアル後、常設展示室にて展示を予定してございます。

御説明及び御報告は以上となります。

根崎委員長：ありがとうございます。

ただいまの説明に対し、何か御質問、あるいは御意見はございますでしょうか。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、これから資料を実際に見に行きたいと思います。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

根崎委員長：それでは、議事を再開させていただきます。まず、委員の先生方、資料を御覧になって何か御意見、御質問はございますでしょうか。

田沢委員：のぞき眼鏡ののぞくところの、金唐革。あれは舶来のものか、平賀源内がつくったような金唐革紙のような国内のものなのか、お分かりになりますか。

新田事業企画課長：分かっておりません。

田沢委員：もしも源内の周辺でというようなことが分かれば、とても面白いですね。それと、葵紋というとすぐ徳川と結びつけたくなるのですが、これは必ずしも徳川とは言えないというものですか。

新田事業企画課長：そうですね、まだ調べがついておりません。

田沢委員：わかりました。源内がつくって、將軍周辺であれを見ていたら面白いな、と思いました。

根崎委員長：そのほか御質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、意見交換に移りたいと思います。この後、委員の皆様から総評を一言ずついただ

ればと思います。その際、収集にふさわしくないと考える資料がある場合には理由なども併せて伺えればと思います。

それでは、田沢委員からお願いいたします。

田沢委員：今、拝見したものはいずれも、江戸時代の近世の資料ということで付議されているものと思います。それぞれ展示に大変ふさわしいものではないかという気がいたしました。

特に、辻内家の儀式の道具。これは幕府の御用絵師狩野晴川院の『公用日記』の中にも、婚礼の際には古い屏風を修繕するときには、同じ家の直系の人が当たるように差配しているのが出てきます。そういうような幕府の職制の関係とかも含めて、江戸時代の制度がよく分かるものだと思います、大変面白いと思いました。

それと少し気になるのは染織関係の資料です。町方の町人のものとお聞きしましたが、紋に杏葉牡丹が使われていて、紋を使うのは限られた状況しか考えられないのではないかと思いますので、その辺が興味深く、かつ小紋が大変優れたいい小紋だなと。巧緻につくられた、手間のかかるいい作品ですので、その辺もまたいろいろ分かれれば大変貴重になるのではないのでしょうか。浅草風俗図も、時代的なものも18世紀の前半くらいでよさそうですし、大変面白い。

また、殿村篠斎宛ての馬琴の書簡ですが、『料理通』はたしか江戸博にも所蔵されているのではないかと思いますけれども、書かれている人物など、それらと関連づけて使える。まさに同じような年の最新のニュースをビジュアル的に見せるものと、それをどう馬琴など周りの人が見ていたかというのが分かると、大河ドラマにすぐ乗りそうな面白い話題のものではないかなと。

いずれも今回のものは、この館にふさわしいものではないかと拝見いたしました。

根崎委員長：ありがとうございます。それでは、続きまして、高橋委員、お願いいたします。

高橋委員：私が時間を忘れて見入ってしまったのが、浅草の風俗図屏風でした。非常に細かく様々な風俗が書かれていて、特にお店を描いている形、いろいろ本当に細かくてリアルで、あれを1画面ずつクローズアップして解釈していくと、その当時、享保あたりかとお聞きしましたけれども、その頃の江戸の暮らしとか、そういったものがすごくリアルにビジュアルでいろいろな方に見ていただける。すごく面白いなと思いました。ちょっと残念ながら雲の部分で黒ずんでしまっているところ、恐らく銀箔なのではないかということですが、そちらは修復されてもいいのかなと思いました。

それと、染織のほうですけれども、あの小袖類ですが、木綿地であれほど状態がよく残っているというのは極めて貴重かなと思います。虫食いもあまりなかったです。それから、先ほど田沢委員のほうから御指摘があった家紋のことです。私は伊達紋のような形で、江戸も終わりくらいになると使っていたりするのかなとちょっと思ったんですけれども、その辺りのことはこれから調査していただければと思います。非常に染めも凝ったものですし、かなり技術の高い方がこの紋を型染めされていると思います。状態もいいですし、あまり現存するものはないのではないかと思います。非常にいい収集をされているのではないかと思います。

それから、1点、明治終わりか大正ぐらいですか、派手な着物もありましたけれども、あれも西洋の花が入ってきて、こぞっていろいろな今までの日本の伝統的な模様の中に、今まで使われていなかったようなモチーフとか、お花類が使われて吉祥紋としてすごく流行っていくんですね。そういった流れの1つで見えていくと、デザインというものの移り変わりの中で、こういった

ものが流行ったのか、そういった文脈の中でも展示ができるかなと思いました。

最後に、個人的にすごく気に入ったのが、典籍の26番の京伝の『小紋雅話』という小さい本です。小紋で、例えば、まげを少し上から見た様子など、非常にユーモアがあり面白い。江戸のユーモアというのを出している面白い本だなと拝見しました。非常にどれも優れた資料だと思います。以上です。

根崎委員長：ありがとうございました。それでは続きまして、江村委員お願いいたします。

江村委員：私も田沢委員、高橋委員とともに、繰り返しになりますが、いずれも江戸東京博物館の資料としてふさわしいものというふうに拝見いたしました。これからの調査研究にも、そして展示にも生かしていける、すばらしい資料だと思います。

中でも、染織関係資料、今、高橋委員もおっしゃいましたけれども、非常に状態がよく、そして展示には工夫が必要なのかもしれませんが、下前の本来見えないところにああいう美しい模様がさり気なく加飾されているところ。やはり江戸の人の粋というか、そういうことをうまく展示の中でもお伝えいただけるといいのかなと思いました。

小紋も非常に細かくて、杏葉牡丹の紋の中にも細かい小紋が入って見えましたけれども、今回は私ども非常に幸運なことに間近で拝見しましたが、やはり展示ケースの照度を落とした中ですとそこまで見えないかなと思います。例えば拡大したパネルのようなものをキャプションのところに置くとか、そういう細かいところの技術を伝えるということができると、なお一層いいのかなと思いました。

浅草風俗図屏風もとても興味深い作品ですが、ちょっと小ぶりの屏風はもともと1隻の可能性と、ももとは1双であったものがあって、御担当の方からも、本来は上野のものとお対だったのではないかという御意見を伺いました。そういうことも展示の際に、キャプションや解説などで併せてお示しいただけるといいのかなと思いました。実際に銀が使われていて、黒ずんでいます。あれを金じゃなくて銀で表したというところも、渋くてなかなかすてきな見どころのある部分だと思います。制作当初はもう少し白金色だったと思いますので、制作当初の姿というものの解説などで御提示していただけると、より理解が深まるのかなというふうに思いました。

大工道具やのぞき眼鏡なども、非常に視覚効果が高いというか、展示ケースに入れたときに展示効果の高い作品だなと思いました。のぞき眼鏡は下の部分の薄絹がちょっと破れたり、ほつれたりしている部分が見受けられまして。これをこの後、長らく所蔵品としていくためには、保存修復のようなことが必要になるのかなと思いますが、あれだけ薄い絹ですと修復も大変だとは思うので。染織の修復家の御意見なども伺いながら保存しつつ、収蔵庫に入っているだけでは博物館資料はお蔵入りにになってしまうので、それをいかに活用していくかということをお考えいただけたらいいかなと思いました。以上です。ありがとうございました。

根崎委員長：ありがとうございました。それでは、続きまして藤實委員、よろしくをお願いいたします。

藤實委員：いずれも貴重な資料で、江戸博の今後の発展、また教育普及に寄与できるものだと判断いたしました。

私は文書（もんじょ）のほうを中心に見せていただきました。6番の殿村篠斎の曲亭馬琴の書簡ですが、長さ自体、9メートル64という、この長さ自体で馬琴の性格が如実に表れていると

思いましたし、状態もとてもよい。字がちょっと難しいということでしたけれども、出版研究というものに大変寄与するものと思いました。『馬琴書翰集成』という資料集が8巻、別巻を含めて出ているのですが、その中にないものが今回収蔵になったということで、馬琴研究者にとっては垂涎ものといえますか、よく情報を入手されて収集されたなと思っております。

次の7番の越後高田藩の今井重春関係資料ですが、一見すると、小品のように見えるかもしれませんが、1か月江戸に滞在していてそこでの生活の様子が分かるということで。文久3年の江戸の状況というのを読み取ることができる資料というのはそう多くはない。将軍が上洛して、半分政治自体が江戸を離れてしまっておりますので、そこに追いかけて入ってきた藩士の記録ということで、とても意味があるだろうと思います。

それから、8番の井上貫流左衛門家の資料、これを一番長く拝見しました。井上家という、幕府にとってみれば新しい時期に抱えられた砲術家、18世紀の末になってから抱えられた砲術家の資料ということで、今まで江戸博で持っておられたものとようやく一緒になったということを教えていただきました。

今回は、砲術関係の資料が多いということで、蔵書印が少しヒントになるのかなというふうに思いました。井上貫流文庫というふうに押してある資料群と、それから後で収集された富原さんが押された蔵書印のみのものと2つの系統があるようで。家の中でとても大事にされていたものについては、朱肉の色もかなり高級感のある井上貫流文庫の蔵書印が押されていたんだろうと思いました。そこに含まれるのは、青色表紙の枳形本の金泥で絵が描いてあるものでした。そちらについては、砲術を超えて文学というレベルのものの口伝というのが、特徴として見られました。あともう一つ、江戸城御蔵にあった竹橋御蔵の大砲の図というものがありませんでしたが、江刺隊のものですが、それにも同じようにこの井上貫流文庫の印が押してあったということで、かなり大事にされていたものというふうにお見受けしました。

竹橋の蔵でどういうものが保存されていたのかということについては、文書（ぶんしょ）については断片ですが記録があります。大田南畝の『竹橋余筆』などで分かっているんですけども、蔵の大砲がどういうものだったか、という点は全く分からない部分でした。今回初めて資料が出てきたということで研究の進展が期待されるころだと思います。大変貴重なものを拝見させていただいて、ありがとうございました。

根崎委員長：ありがとうございました。それでは、続きまして福原委員、お願いできますでしょうか。

福原委員：今までの先生方と一緒に意見ですけれども、いずれも江戸博が収蔵するのにふさわしいと思います。

個別に関しましては、浅草風俗図屏風ですけれども、千葉県佐倉の国立歴史民俗博物館に高松宮家伝来本の『浅草風俗図巻』がございます。今回拝見したものは庶民風で、景観年代が享保五、六年ということで、比較材料としては非常に同じぐらいの景観年代だと思われます。

そして、御担当の方に大英博物館の絵巻もカラー図版で見せていただいたのですが、両方とも巻末というか、屏風の一番最後は熊谷稲荷でした。今日拝見したものには仲見世のところに絵馬屋があったんですが、絵馬を熊谷稲荷に奉納している描写はなく、一方大英は何人かの人が奉納していました。大英博物館のものは初午の風景だと思うんですけども、こちらはそういう年中

行事ではないという感じでしょうね。

御担当の方にこの浅草風俗図屏風とのぞき眼鏡、これはガラス絵研究で著名な内田六郎収集ということで、ということは内田六郎はこの屏風にしても、のぞきからくりの場面に注目したわけですね。実は絵からはあまり聞こえてこないですけども、私は大坂城内の博物館に勤めていたときに天王寺に住んでいたのですが、四天王寺のお彼岸で、1982年、83年は小沢昭一的な最後ののぞきからくりが四天王寺の境内に出ていまして、老夫婦が上から掛け合いで物語を語る。ですので、のぞきからくりはビジュアルなものと語りが合わさった芸能、大道芸といえるかと思います。どれぐらい音源が残っているか分からないのですが、そのあたりも展示で見せていただけたらと思います。

最後に、一番目のこの具足ですが、昨年、津和野で鷺舞を見てまいりまして。ここ数年、亀井家の古文書記録は神田の古書肆に大量に流れてしまっておりまして。なおかつ具足類はなかなか地元には置けない。残念ではありますが、江戸博で収集する予定で今後展示して下さるということで、「文化財が収まる」という意味では非常によかったのではないかと思います。以上です。

根崎委員長：ありがとうございます。続きまして、田辺委員お願いいたします。

田辺委員：委員の皆様がおっしゃったように、今回、とても楽しく面白く拝見しました。

私は専門が絵画のほうなので、4番の浅草風俗図屏風についてだけちょっとお話ししたいと思っています。とても仲見世のお店の様子がよく描かれていて、そのあたりは非常に一般の方が興味をもって御覧になるだろうなと思いました。私は、女性の髪形から享保ぐらいだなという感じを持ったのと、やはり先生がおっしゃったように歴博の『浅草風俗図巻』を思い出しておりました。大英博物館のほうで、卷子として同じ粉本であろうものがあるということ、大英のほうで少し先かなという気はしますが、時代はこのあたりで設定してよいかなと思いました。

あと少し気になったのは、今、六曲一隻ですけども、大英の卷子本があるということもあり、もともと卷子として制作された可能性もあるかなと思っています。3本卷子本を貼って、間を銀で上から重ねるということは、可能性としてあるかなと思いました。そのほかの部分も、後で体裁を整えたものではないかとも思いましたので、できれば細かく紙継ぎのサイズを測っていただいて、卷子本としての紙継ぎのスパンと縦サイズを細かく採寸していただいて、もともとの形を検討していただけると面白いかなと思いました。以上です。

根崎委員長：ありがとうございます。それでは、続きまして金山委員お願いいたします。

金山副委員長：これまで皆様方から御意見がありましたように、いずれの資料についても受け入れをするということに価値があると私も思います。

幾つか感想を述べさせていただきます。1つ目は、先ほど福原委員がおっしゃっていましたが、浅草風俗図屏風の中でからくりの場面が出てきます。からくりの現物については国内に幾つかあり、私が知っているものでは、新潟県の巻町(現新潟市)の郷土資料館に現物があります。10年ぐらい前にその館長がおっしゃっていたのですが、ただ見せるだけではなくて、そこにちゃんと語りを入れるんです。館長は女性で、語りを入れて、来たお客さんにそれを見せる。収蔵庫のようなスペースでそれをやっています、もし今後、そういったことに関連する調査をするのであれば、巻町のからくりなどは参考になると思います。

2つ目は、移管資料の円太郎バスについてです。写真を見たのですが、かなり状態がいいです

ね。東京都の交通局で保管されていたということなのですが、どのような状態で保管されていたものなのか。そしてそれを受け入れて、恐らくリニューアルのときに何らかの形で公開していくと思うんですが、展示の見通しについてもお聞かせいただければと思います。

3つ目は、資料を受け入れる際の由来や来歴についてです。業者さんから受け入れていますよね。最近、受け入れた資料の由来、来歴について、なるべく遡及できるものはそれを遡及していくということを、法改正の一連の流れの中で検討、議論されているようなことを聞きました。業者さんから受け入れると、資料の由来や来歴が断絶してしまい、その前が分からないという形になることが多いと聞いています。資料をデータ化していく上ではとても大事な属性でありますので、その部分を業者さんとのやり取りの中で調べることはできないかということ、意見として挙げさせていただきます。

根崎委員長：ありがとうございました。

それでは、私のほうからちょっとお話をさせていただきます。各委員もおっしゃっておられましたように、いずれの資料も大変貴重な資料だなと思いながら拝見いたしました。そういった意味で、江戸博で収蔵されるのには本当に適切でふさわしい資料だと思いました。

特に、今回資料を拝見する中で、文書の書類関係に目が止まってしまって、そちらのほうに時間を割いて拝見していたわけなんですけれども。まず曲亭馬琴の書簡、これは誰が見ても確かに長い文章で、私もいろいろ古文書を使う研究をするんですけれども、これだけ長い書簡というのは多分初めてだろうと思います。

ほかでお持ちのものについても、曲亭馬琴の場合には長い書簡が多いということは一般的に、癖、特徴として言われております。今日、開いていたのは2メートルちょっとぐらいでしたが、ざっと拝見しました。説明していただいた方からいろいろ教えていただいたんですけれども、面白い点として、書簡が非常に読みにくいということがありました。確かに普通の古文書と違って、書簡というのは個性的な文字で書かれることが多いので、読みにくいところもぜひ解読していただきたいと思います。書簡というのはいろいろメインになるテーマで書かれることが多いわけですが、これだけ長い文書になってきますと、いろいろ身辺のこととかが出てきます。

僕も開いていたところを拝見したら、ちょうど文政5年というあたり、イギリス船が出没してきているという記載がありました。それから、江戸では非常に火災が多いというような記載もありました。それから、八百善の仕出しのことについて大分書いているところがありました。ほんの2メートルぐらいの長さのところに江戸の日常が分かるような記載があるという意味でも、9メートル全部を読むといろいろ面白いことが記述されているのではないかと。そのことは江戸の文化とか暮らしを知る上ではかなり重要なのではないかと思います。

ですから、書簡というのは先ほども言いましたように、読みにくい部分、文字が必ずあるものですが、何とか読んでいただいて、その情報を一般のお客さんなどにも公開していただければと思っています。

それと次に、道中日記なのですが、これも拝見いたしました。道中日記というものもピンからキリまであって、簡単な記述しかないものもありますけれども、こちらは比較的いろいろな情報が日記の中に書かれておりました。二、三ページをめくって見たんですけれども、特に道中を移動する中で、いろいろ気づいたものや、食べ物の値段が事細かに書かれているということがありま

した。また、上洛に随行した人々であるのに、ほぼ毎日酒を飲んでいるということも気になりました。意外と酒が安いということも気づきました。そういうことも楽しみだったんだろうなと思います。

解説していただいた方に教えていただいたわけですが、この担当がくじ引きで決まったということのようです。それほど身分の高い人間ではなかったようですので、誰もやる人がいなくてくじ引きになったのか、あまり気が進まなかった人たちの中でくじ引きで決まったのかもしれないとは思ったのですが、その割にはこういういい目にあっている。これは将軍の上洛に本当に随行しているわけですが、いろいろな茶杓を買ったり、いろいろなお土産もそこで買っているということも記述から分かりました。

それと今井家の日記を拝見すると、全体的にかなり虫食いが多い資料でした。もちろん公開するときには多少裏打ちなり修復をされるのかなとは思いますが。道中日記というのは比較的多いと言えは多いものなんですけれども、長い記述がありますのでぜひお読みいただいて。ここから分かる、先ほどのこの時代の物価というのはこういうものでしたという点も、今との比較で重要なかなと思ったりもしますので、ぜひこれも読んでいただいて、ここから得られる情報を皆さんに示してほしいと思いました。こういった虫食いなどの資料を入手すると、どうしてもお金のかかる修復ということが出てくるわけですが、今できることにしておいたほうがいいのかと思いますので、そちらの方面も進めていただければと思います。

そのほか、各委員がおっしゃっていましたように、からくりの関係とかのぞき眼鏡の関係、あと屏風の類も詳細に描かれている。いくら粉本を手がかりに描いた絵であったとしても、全く同じではなく、それぞれの画家の特色が出ているように思いますので、大変興味深く拝見したという状況です。私のほうからは以上です。

それでは、皆さんからのいろいろな意見を伺ったわけですが、これまで皆さんから意見を伺った上で、追加で御意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。何かここを言い忘れたとかある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

（「意見なし」の声あり）

皆さんからいろいろ詳しいお話もいただきましたので、それでは、これで意見の総評を皆さんからいただいたということで、これをもちまして収集部会を終了したいと思います。委員の皆様、本当にありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

宮田文化施設担当課長：根崎委員長、ありがとうございました。事務局のほうから何か追加で御説明などはありますか。

新田事業企画課長：では、金山副委員長のほうから先ほどいただいた御質問について、簡単ではございますけれども、お答えを申し上げます。円太郎バスの件ですが、こちらは以前、万世橋にありました交通博物館で所蔵されておりました。そちらが鉄道博物館として開館した際に東京都に貸与された後、譲渡を受けまして、そして東京都交通局のほうで保管されていたということで、保存環境がよい中で伝世していたということをお答え申し上げます。

根崎委員長：ありがとうございます。

宮田文化施設担当課長：では、冒頭にも申し上げましたが、お配りしました資料一式は回収させていただきますので、机の上に置いたままにしていいただければと存じます。なお、今年度第2回の資料収蔵委員会についてですが、12月18日木曜日の10時から開催させていただく予定でございます。後日開催通知をお送りさせていただきます。

それでは、令和7年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料収集部会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。

午前11時44分閉会

以上